

# 女性医師交流会 @ 白十字病院

- 1 日時：令和元年10月18日（金） 16時～17時30分
- 2 場所：白十字病院（福岡市西区） 第2講義室
- 3 コーディネーター：白十字病院 乳腺外科 松尾 文恵 先生
- 4 プログラム

(1) 講演 「私の another sky-アナザースカイ」  
久留米大学病院 守屋 普久子 先生



## <講話のポイント>

### 〇病院内の小さな改革について

久留米大学病院男女共同参画事業推進委員会（元気プロジェクト）の取り組み紹介

### 〇男女共同参画の課題について

学生にも、男女かわからず、「育児は女性の仕事」というアンコンシャスバイアスがある。

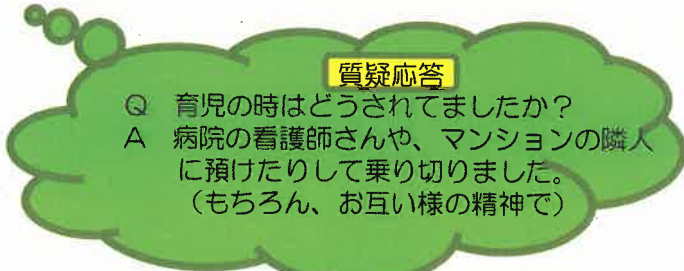
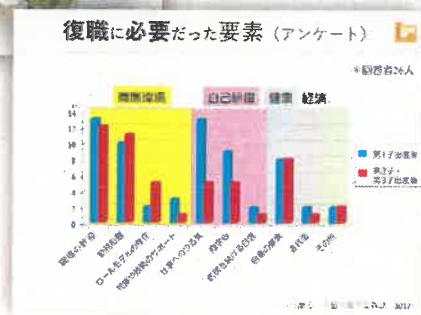
### 〇女性医師へのアンケート結果について

女性医師の仕事に対するモチベーションは、出産や育児により、25～30歳で急激に減少。専門医取得などにより30～35歳で徐々に増加。

また、復職には、職場環境が重要な要素を占めている。

### 〇講師の先生からのメッセージ

- ・女性医師には仕事を続けて、育児も仕事もどちらも「ファースト」であってほしい！
- ・時間を大切にして、チャンスは逃さず自分つかみとってほしい！



Q 育児の時はどうされてましたか？  
A 病院の看護師さんや、マンションの隣人に預けたりして乗り切りました。（もちろん、お互い様の精神で）

## (2) 情報交換会

講師の守屋先生が学生の授業で使用している事例について、KJ法によるグループワークを行いました。

### Case study

夫婦とも久留米市内の病院の勤務医です。Aさんは外科、Aさんの夫は小児科です。

Aさんは第1子を妊娠中で、現在妊娠5ヶ月です。

夫の両親は久留米市内に住んでいますが、Aさんの両親は、鹿児島に住んでいます。

Aさんは出産後の復職に不安を抱き、あなたに相談してきました。あなたはどのようにアドバイスしますか？



### <主な意見>

- ・ヘルパーさんや近所の人など、いろんな手段を活用する。
- ・夫と話し合い、夫の家事参加や育休取得などサポートをしてもらう。
- ・職場の理解を得るよう、同僚上司と話し合う。

